

かめのり大学院留学アジア奨学生

月次報告レポート

(2022年12月)

一、研究内容について

今月の初旬は、観光スポット推薦に関する研究、カーネル密度推定のバイアス修正に関する研究とカーネル回帰のバイアス修正に関する研究から構成された博士論文を提出しました。これからは1月での博論審査会への準備を取り組んでいきます。

インターンでの人物画像検索の研究について、今月はパラメータチューニングしましてモデルの効果を向上しました。これからは今までの研究内容をまとめて論文執筆に取り組んでいきます。また、今の提案手法に基づく新しいアイデアを思いつきました。今の論文執筆を完成しましたら、そのアイデアの効果を確かめにいきたいと考えています。

観光推薦の研究について、今月はユーザー調査を行うためのアンケートを作りました。

二、生活について

今月で中国はコロナに関する政策を大きく転換しました。今は恐らく一番感染しやすい国になりました。私の家族では数人が感染されました。また、今年で中国に戻った友人は日本にいる数年間で一度も感染されていなかったが、政策転換の直後、直ぐに感染されました。

一方、政策転換直前の状況で「ゼロコロナ」の政策を続けるのはもう不可能であり、今回の政策転換はやむを得ないことだと思います。何故いきなりこのような状況になりましたか？その原因を明らかにすることは必要だと思います。

中国では三年間ずっとロックダウンしているイメージが強いですが、実はそうではありません。2020年の武漢ロックダウン以降及び2021年の一年間はほとんど封鎖措置をしていません。生活はほぼコロナ前の状態に戻って、旅行することができ、マスクをつけなくても感染されません。それを保証するのは厳格な入境者隔離政策でした。

今年で、上海市政府は一部の入境者に優遇を与え、上海市と周辺の都市で爆発的な感染を受けました。その結果は二か月間の上海ロックダウンでした。上海でのロックダウンは賛否両論でしたが、確実に感染拡大を止めました。本当に転換点となったのは、今年6月での入境者隔離期間短縮でした。それ以降、中国全域での感染が止められなくなり、都市の全域封鎖や住民全員PCRが実施されました。

上海だけがロックダウンした時、他の地域から支援物資を受けていても一時的な食糧不足が生じました。ほぼ全域でロックダウンを実施し、封鎖を長く持つことはありません。その結果は今月の政策転換でした。

中国の医療水準は都市と農村の格差が大きく、地域の間も大きな格差があります。上海のような先進国並みの都市もあり、西北部内陸地域で貧困な農村部もあります。政策転換以来、医薬品の供給不足で、10倍以上の価格で薬を転売する事例が見られました。また、大都市でも悲しいニュースが繰り返し、北京にあるP大学とT大学の訃報の数はコロナ前の数倍でした。